



Title	Isolation and Mapping of Human Homologues of an Imprinted Mouse Gene U2af1-rs1.
Author(s)	北川, 和則
Citation	大阪大学, 1996, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/40486
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏名	北川和則
博士の専攻分野の名称	博士(医学)
学位記番号	第12743号
学位授与年月日	平成8年12月4日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当
学位論文名	Isolation and Mapping of Human Homologues of an Imprinted Mouse Gene <i>U2af1-rs1</i> . (マウスインプリンティング遺伝子 <i>U2af1-rs1</i> のヒトホモローグの単離とマッピング)
論文審査委員	(主査) 教授 門田守人 (副査) 教授 島田和典 教授 松原謙一

論文内容の要旨

[目的]

メンデルの法則によればゲノム上に存在する遺伝子の大部分は、父親から受け継いでも母親から受け継いでも等しく機能する。しかし近年遺伝子のうち1%以下と推定されるが、いずれか一方の親のアレルのみが発現する遺伝子つまりインプリント遺伝子の存在が明らかとなり、またインプリンティング機構が関与する疾患が報告されている。ヒトの病気において遺伝子自体の異常ではなく、その発現異常が原因となっている点においてインプリンティングの概念は新しくかつ注目されている。しかしながらそのメカニズムについては不明で、現在研究されつつある。マウス *U2af1-rs1* 遺伝子は RLGS (restriction landmark genomic scanning) 法により単離されたインプリンティング遺伝子で、父親由来の遺伝子が発現しているのに対して母親由来の遺伝子は発現抑制を受け、いわゆる maternal imprinting の状態にある遺伝子である。しかしひトホモローグに関してはその遺伝子構造、インプリンティングの有無は不明である。今回私はヒト *U2AF1-RS1* 遺伝子の単離と一次構造について検討した。

[方法ならびに成績]

1. ヒト脳 cDNA ライブライリーとヒトゲノムライブライリーをマウス *U2af1-rs1*cDNA をプローブにスクリーニングし、cDNA ライブライリーからは2種類の、ゲノムライブライリーからは3種類のクローンを単離した。ゲノムライブライリーからの3種類のクローンをプローブに用いて、Hybrids panel 及び Fluorescent in Situ Hybridization (FISH) にて mapping を行った。3種類のクローンは、5q22, Xp22, 19p13.2にマップされ、その synteny より、各々ヒト *U2AF1-RS1*, *-RS2*, *-RS3* と名付けた。ゲノムの構造において *U2AF1-RS1* は intron less gene であった。
2. *U2AF1-RS1* と *-RS2* は脳で発現しており、cDNA ライブライリーから得られた2種類のクローンに対応しており、mRNA のサイズはともに1.7 kbp であった。*U2AF1-RS1* と *-RS2* の cDNA の全長は、各々 1479 bp, 1488 bp であった。また open reading frame のサイズは、各々 1440 bp, 1449 bp で 479 amino acid と 482 amino acid の蛋白質に相当した。*U2AF1-RS1* と *-RS2* の両者のホモジニーはアミノ酸レベルで 92.1% と高く、ヒト・マウス間のホモジ

ーはアミノ酸レベルで-*RS1* は72.4%, -*RS2* は75.1%であった。また splicing factor である U2AF small subunit とは、アミノ酸レベルで-*RS1* は32.6%, -*RS2* は34.0%とマウスと同様に有意なホモロジーを示した。

[総括]

- (1) ヒト脳 cDNA ライブラリーとヒトゲノムライブラリーをマウス *U2af1-rs1*cDNA をプローブにスクリーニングし、ヒト *U2AF1-RS1*, -*RS2*, -*RS3* を単離し、各々は5q22, Xp22.1, 19p13.2にマップされた。
- (2) ヒト *U2AF1-RS1* 遺伝子は intron less gene であり、マウス *U2af1-rs1* 遺伝子の遺伝子構造を比較するとマウス *U2af1-rs1* 遺伝子でみられた繰り返し配列を含む CpG island の存在する約1.2 kb におよぶ5' 側非翻訳領域が、ヒト *U2AF1-RS1* 遺伝子では24 bp の5' 側非翻訳領域しか認めなかった。
- (3) 進化的に Human *U2AF1-RS* Gene family は、ヒト・マウス間の種が別れた後に 3 つに分離したと考える。

論文審査の結果の要旨

両親のいずれか一方の親のアレルのみが発現する遺伝子、つまりインプリント遺伝子の存在が明らかとなり、またインプリンティング現象が、人間の病態に関与し種々の遺伝性疾患や、Wilms腫瘍・食道癌・肺癌などにおけるインプリンティング現象の変化や Loss of imprinting が指摘されている。つまり遺伝子自体の異常ではなく遺伝子の発現調節が異常となっている点において、インプリンティングは新しい発病・発癌機構と考えられる。

本研究は、インプリンティング現象の分子機構の解明の為、現在までに同定されているマウスインプリント遺伝子 *U2af1-rs1* のヒトホモローグの単離と遺伝子構造解析及びインプリンティングの有無について検討を行ったものである。ヒト *U2AF1-RS1*, -*RS2*, -*RS3* 遺伝子は5q22, Xp22.1, 19p13.2にマップされた。ヒト *U2AF1-RS1* 遺伝子はイントロンをもたない遺伝子で、検討し得た臓器全てにおいてインプリンティングされておらず、マウス *U2af1-rs1* 遺伝子との遺伝子構造の比較から、マウス *U2af1-rs1* 遺伝子の5' 側非翻訳領域でみられたアレル特異的メチル化を受ける CpGisland の消失が、この遺伝子群のインプリンティング機構に関与している事が示唆された。

本研究はインプリンティング機構にゲノムのメチル化が関与している事を明らかにしたもので、学位の授与に値すると考えられる。